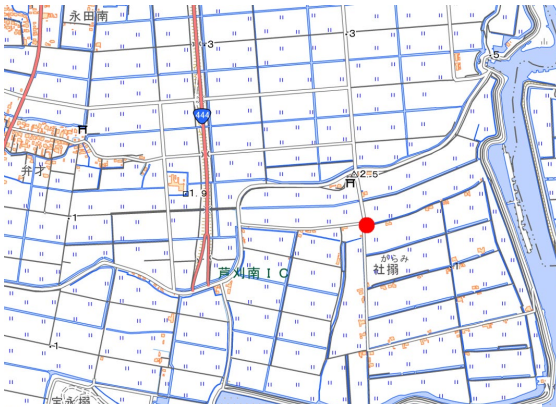
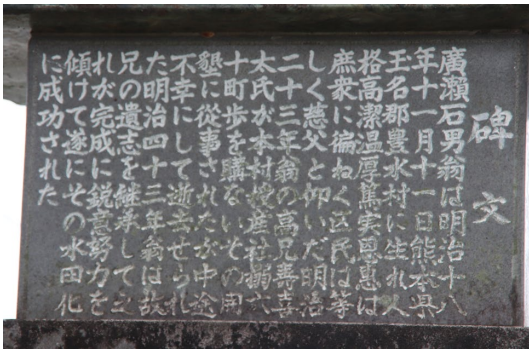
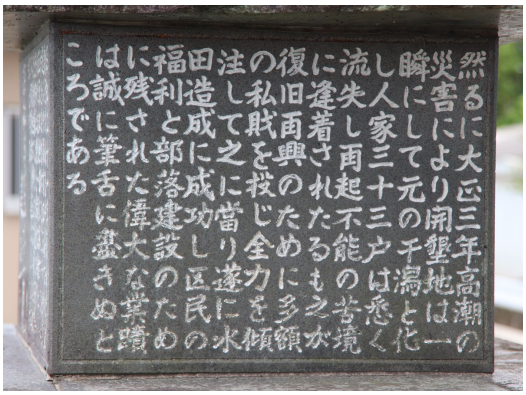
番号	89	廣瀬石男翁頌徳碑　　神戸市長　原口忠次郎謹書		
所在地		小城市芦刈町道免　大日搦１５１		
災害別		大正３年（１９１４）　高潮		
目的別		顕　彰	建立年	昭和３５年１月
特記事項				

有明海沿いの干拓地には大正３（１９１４）年８月２５日の高潮の被害を記した碑が多くみられる。この碑は、干拓地の開墾を行うとともに、大正３年の高潮で壊滅的被害を受けながらも多額の私財を投じて復旧させ、戦後の農地改革とともに所有田のほとんどを区民に解放した廣瀬石男氏（1885～1958）を顕彰した碑である。廣瀬氏はその後、芦刈村議会議員や芦刈村教育委員会委員長などを歴任された。碑文には大正３年の高潮被害の模様について記してある。

「（正面）碑文　廣瀬石男翁は明治十八年十一月十一日熊本県玉名郡豊水村に生まれ人格高潔温厚篤実恩惠は庶衆に徧ねく区民は等しく慈父と仰いだ明治二十三年翁の高兄壽喜太氏が本村授産社搦六十町を購ないその開墾に従事されたが中途不幸にして逝去せられた明治四十三年翁は故兄の遺志を継承して之れが完成に鋭意努力を傾けて遂にその水田化に成功された　（右面）然る



国土地理院電子国土 Web

に大正三年高潮の災害により開墾地は一瞬にして元の干潟と化し人家三十三戸は悉く流失し再起不能の苦境に逢着されたるも之が復旧再興のために多額の私財を投じ全力を傾注して之に當り遂に水田造成に成功し区民の福利と部落建設のために残された偉大な業績は誠に筆舌に盡きぬところである　（裏面）昭和二十一年農地改革断行されるや翁は率先進んで保有田五十町余歩をあますところなく区民の全部に解放せられた区民一同は翁の尊き郷土愛と温情の徳澤を敬慕しその慈恩を永く後世に傳えるため茲に頌徳碑を建立して碑文とする　昭和三十五年一月建立」

（下面）建設者氏名、相談役、世話人氏名（略）